



—ぼいす— Voice

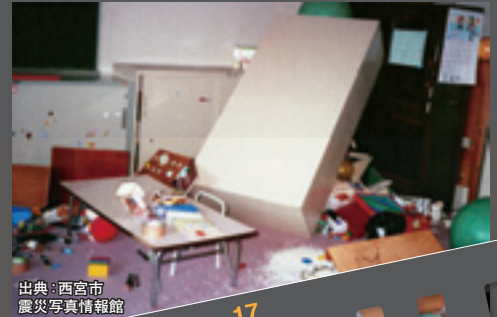
特集
P1~3

首都直下地震!! あなたがいまできることは?

近い将来に発生すると予想されている首都直下地震は1995年に発生した阪神淡路大震災以上の被害が予測されています。しかし、地震直後における公的機関からの支援はほとんど期待できないと言われていいます。そのような中で、皆さんで今できることはなんですか?



撮影：大木本美通 提供：神戸大学附属図書館 震災文庫



出典：西宮市 震災写真情報館



出典：西宮市震災写真情報館

阪神淡路大震災では消防や自衛隊などに助け出された人よりも近隣住民に助け出された人の方が3倍以上もいました。近所と連携した助け合い(共助)によって被害拡大を防いだのです。いま、首都直下地震に向けて地域でやるべきことはなんですか?



撮影：大木本美通 提供：神戸大学附属図書館 震災文庫

**まちの防災力強化にあなたの協力が不可欠。
日頃の減災活動が被害減少のかぎを握る。**

消防・自衛隊等により助け出された
8,000人

近隣住民により助け出された
27,000人

1995年に発生した阪神淡路大震災では、約27,000名が家族や近隣住民によって助け出されました。大規模な震災時には多数の家屋倒壊、火災などが発生し、負傷者も大勢いました。しかし、消防や警察、自衛隊の規模ではなかなか対応が出来ません。さらに、受け入れ病院にも限界があるため、住民による自助と共助が不可欠となります。自分の命を守るためにまずは自宅の防災対策から始めましょう。さらに、地域で丸となって災害に立ち向かうためには日頃からの防災活動が大切です。ぜひ、地域の防災活動へ積極的に参加をしましょう。

地域の防災訓練のお問い合わせ

四谷特別出張所

〒160-8581
東京都新宿区内藤町87番地
電話：03-3354-6171

新宿区危機管理課

〒160-8484
東京都新宿区歌舞伎町1-4-1
電話：03-3209-1111(代表)

工学院大学

〒163-8677
東京都新宿区西新宿1-24-2
電話：03-3340-3442

合同会社グローバルリンク

〒251-0044
神奈川県藤沢市辻堂太平台1-4-A410
電話：080-5055-6820
Email：global-link@m3.gyao.ne.jp

計画では、中期計画で作成した点検マップを基に実践を想定した防災活動計画を立てます。

実行では、点検マップ作成において発掘した課題への対処が可能か防災訓練を実施します。落下物がありそうなところには模擬負傷者を配置します。木造家屋周辺には模擬火災の看板を設置します。訓練時には住民が自ら対処をします。さらに、その被害情報を本部に伝達することも行います。これにより公的機関に的確な援助を要請することが出来ます。

検証では、現在の班員構成で対応が可能か、あるいは短時間での対応が可能かについて検証します。

改善では、浮き彫りになった課題を整理し、改善していきましょう。また、訓練計画についても次年度に向けて改良していきましょう。



住民が被害情報を収集し本部に伝達することでまちの状況をより早く把握することが出来ます。



まちの住民に実際に発災への対応を行ってもらいます。右図は火災への対応、上図は負傷者への対応の様子です。

計画では、どのような防災活動を実施するか話し合います。住んでいる地区の被害想定や防災マップなどを参考にと良いでしょう。

実行では、計画で挙げられた情報を基にどのような対策が出来るか話し合います。

検証では、現在のまちの防災能力で対応が可能か検証しましょう。

改善では、浮き彫りになった課題の改善に向けて活動しましょう。



まずはきっかけ作りとして、講習会や勉強会を通じて住民にまちの危険性や防災まちづくりの必要性を認識してもらいましょう。

長期

中期

短期

防災まちづくり

地域の防災活動に参加しよう

『地域防災訓練を考える!!』

今年度、花園小学校エリアの防災訓練は工学院大学の協力を得て実施されました。
 今回の特集による情報の共有が、四谷地域での自助と共助を考える上で活用されることを願います。
 四谷地区協議会課題別プロジェクト 防災・地域安全 リーダー 大塚 光男



まちの危険箇所や役立つ資源を発掘するために
 まちあるきをしましょう。



点検した内容をマップに書き込み、まちで課題の
 共有を行いましょ。

計画

計画では、短期計画で浮き彫りになった課題の改善事項
 などを計画に盛り込みます。

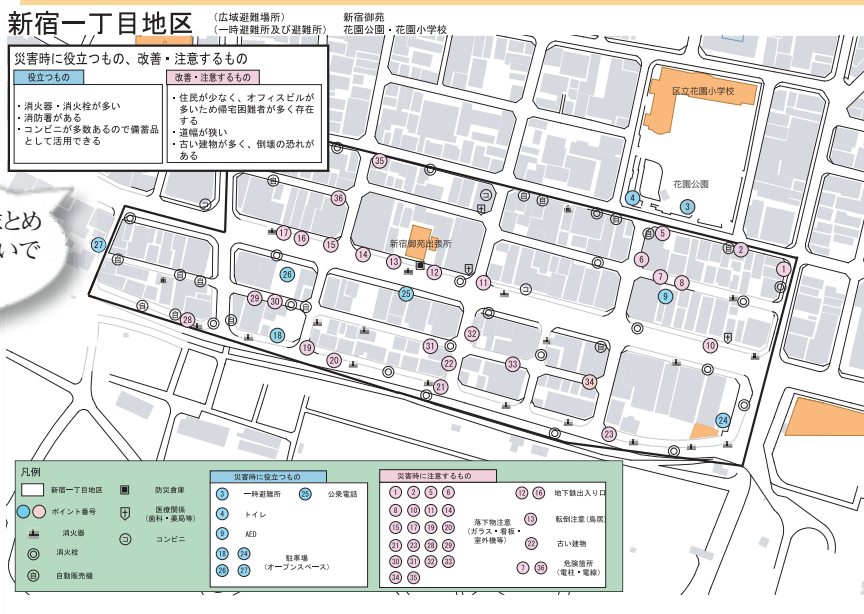
実行では、まちあるきなどをして危険箇所や災害時に役立つ
 資源を発掘し、点検マップ(下図)を作成しましょう。

検証では、危険箇所などについてどのような対策を行う
 必要があるか話し合いをしましょう。

改善では、点検マップを広く公表し、まち全体で課題の
 認識をしていきましょう。

計画

良い点、悪い点をまとめて
 おくとわかりやすいで
 しょう。



計画

(出所:新宿一丁目町会と工学院大学が作成)

の取り組みの幅

「自治」を考える

今、新宿区では自治基本条例の制定に向けて区民・議会・区の三者で「自分たちにとって一番身近な政府組織に自分たち自身が関与していく位置づけ」が討議されています。各地区協議会でも区民検討連絡会に代表を送り地域の声を反映した意見を述べています。広報誌「声」では皆さんと一緒に自治を考え、ご意見を伺い、地域代表である委員がその声をお届けできるよう企画しました。皆様の読後の感想、ご意見、ご質問をお待ちしています。

住民が主体となるまちづくり

—「自治」という言葉—

そもそも「自治」ってどの様なことだろう。大辞林で引くと自治とは、『①自分たちのことを自分たちで処理すること。②人民が国の機関によらず自らの手で行政を行うこと。特に、地域団体による地方自治をさすことが多い。』と書かれています。

「自分のことは自分でしなさい」と子供の頃、親からの躰しづでこんなことを言われたことはありませんか。新宿区民会議提案書には「自分たちの地域を自分たちで治めるといふ自治本来の考え

方に立ち戻り、自治・分権時代にふさわしい《新たな自治の理念・しくみ》の構築がいま求められています。あらためて暮らしやすい地域社会とは何か、自治とは何か、区民と新宿区との関係や新宿区と都、国との関係はどうあるべきかが問われています。」と書かれています。こうした時代認識のもと、私たち自身が地域社会の課題を解決する主体であることを改めて確認して、新宿区政の活動を的確に把握するとともに私たちの意思が反映するようその運営に主体的に参加していく必要があります。

「自治」という言葉は、そのまま読むと、「自ら治める」です。その意味で自治を充実させていくことで、区民が主体となって区政に参加し、基本的人権が保障される総合的に利用者のニーズに応じた行政サービス（窓口業務、医療福祉、教育等）を実現し、あわせて区民等（区民・NPO・地域企

業など）が担う公共（例えば、江戸時代では河川の改修や道づくりなどを地域の人々が行っていました。）を自主的に連携して形成していくことが求められています。

業など）が担う公共（例えば、江戸時代では河川の改修や道づくりなどを地域の人々が行っていました。）を自主的に連携して形成していくことが求められています。

自治基本条例区民検討会議 四谷地区協議会代表
高野 健

「ムトス」の精神

—飯田市自治基本条例現地視察—

新宿区地区協議会連絡会では、平成21年8月25日（26日、既に自治基本条例が制定されている飯田市を視察に行きました。

飯田市の自治基本条例前文（注1）には「まちづくりに進んで参加する『ムトス』の精神を次の時代へ確実に引き継がなければなりません。」と謳っています。「ムトス」とは、広辞苑の最後に出てくる言葉の「んとす」のことです。「ししよう」という、行動への意志や意欲を表す言葉だそうです。訪れた飯田市役所では、市議会議長が自治基本条例の成立の過程を語って下さいました。議長は、市民と議会が力をあわせて制定したことを強調され、特に市議会が党派を超えて全会一致でこの条例を可決したことを熱く語られました。

私はこの視察を通し「財政赤字のな

かで国、都道府県、市区町村任せにせず、私たち地域（町会、自治会、地域諸団体）が、行動の意志と意欲をもって、盛り上げることが大切だ。」と確信しました。そして、地域課題の解決を図ろうと組織された地区協議会の重要性をさらに認識しました。

第2分科会リーダー 大友 敏郎

（注1）○飯田市自治基本条例前文
（平成18年9月21日制定条例第40号）

わたくしたちの住む飯田市は、美しい自然に恵まれ、地域の風土に根付いた伝統や文化に支えられた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進しています。

わたくしたちは、これまで互いに助け合い協力し、特色のある地域活動やまちづくりを実践してきました。

わたくしたちは、分権型社会や少子高齢社会の到来により、社会構造が大きく変化する中で、まちづくりに進んで参加する「ムトス」の精神を、次の時代へ確実に引き継がなくてはなりません。

わたくしたちは、飯田市市民憲章にうたわれた市民としての心構えと理念を尊重し、協働して、市民が主体の住みよいまちづくりを推進するため、ここに、新たな自治の仕組みを定める飯田市自治基本条例を制定します。



ワークショップ風景（飯田市において）

観光まちづくり

―四谷の魅力・四谷らしさは何?―

協議会では「まちづくり」をテーマのひとつとしています。切り口はたくさんありますが、まず観光に焦点をあて四谷の魅力を探ることとし、今年度東京都に「観光まちづくり」アドバイザーの派遣を要請しました。

現在講師から観光マーケティングについて学んでいます。

「四谷の魅力」について次のような意見が出ました。

- ♪ 江戸、明治を今に残す文化の眠る街
- ♪ 時代小説の舞台になっている場所が多々ある。
- ♪ 緑が多い。
- ♪ 寺町谷町の特色がある。
- ♪ 四谷に点在する様々な神社仏閣、そこに奉納されている神仏。それらにまつわるエピソードが多い。
- ♪ 文化を伝える人々が住む町である。
- ♪ 坂、横丁が多く当時の名前がそのまま残っている。
- ♪ 新宿通りが整備され風の通り道になっている。まっすぐ歩きながら途中で横丁に寄り道できる楽しさがある。

※皆様のご意見はいかがでしょうか? ぜひ「声」をお聞かせ下さい。



江戸時代の内藤新宿



現在の四谷見附周辺

教えて地区協!

―今回は地区協自身で質問!―

声

新宿区の推進する「玉川上水を偲ぶ川の流れの創出」計画による工事が新宿御苑の散策路で着工されましたが、「未だ多くの地域の人が計画を知らないのが実情であり、また、新宿区と地域住民が連携をどのようにするのか知りたい」と協議会内部から意見が寄せられ、それをもとに区の担当者に質問しました!

● 地域への周知をもっと欲しい。ご存じない方が多く残念だと感じます。

● 子どもたちも楽しみにしています。「流れ」があるだけでなく、子どもたちが水に触れられるスペース(親水場所)、水辺の生物が棲める場所の設置を希望します。

● 検討委員会では地域代表の方が(検討委員)代表になって意見できるのですが、代表になっていない地域の人の声を聞いて欲しいと思います。

Q1 今後、地域にどのような方法で周知(P.R)していくのでしょうか?

A 現在、区のホームページにて玉川上水を偲ぶ流れの整備計画を紹介しています。また、四谷区民センターの1階に整備計画に関するパネルを展示する予定です。今後とも、できる限り様々な機会を通して玉川上水を偲ぶ流れを皆様に知っていただけるようPRに努めます。

Q2 基本計画には維持管理体制に住民・新宿区・新宿御苑が一緒に協働する構想が書かれています。具体的などのような計画でしょうか? 公園サポーターのような人を募集する予定はありますか?

A 利用者の利便及び管理上の整合を図るため、国と区の施設ができるだけ一体的な管理となるよう、現在、管理体制について、新宿御苑と一緒に検討を進めています。また、維持管理に参加

を希望する方がいれば、是非サポーターとして活動していただきたいと考えています。

Q3 既に水質の改善等の計画があるところですが、具体的にどのようなものがありますか? またビオトープや親水場所の計画はあるのでしょうか?

A 生き物に影響を与えずに水の透明度を確保するため、紫外線とオゾンを活用した消毒を行います。なお、生き物が生息できるような自然な水路として維持するため、基本的には眺めて楽しんでいただきたいと思います。

Q4 検討委員以外の人はどこに要望・質問したらよいのでしょうか?

A みどり公園課公園計画係までお気軽にご連絡下さい。
電話 03-5273-3915(直通)
FAX 03-5209-5595



散策路にある看板です!

内藤とうがらしプロジェクト(スローフード江戸東京)の活動の紹介

昨年11月、協議会にスローフード江戸東京の内藤とうがらしプロジェクトチームの皆さんが「江戸野菜であるとうがらしの復活を通し多様で豊かになった現代の「食文化」に焦点を当て本来の食の在り方についても模索したい」と、活動趣旨をお話しにいらっしやいました。

お話によると、その昔、江戸時代の内藤新宿一带は秋になると内藤藩の栽培するとうがらし(上を向いて実る八房という品種)で赤い絨毯が敷かれた様な光景が見られたそうです。歴史的な背景からも四谷で育ててみたいという皆さんの気持ちがよく伝わって



絵：渡邊昭一氏
(スローフード江戸東京メンバー)

きました。

内藤とうがらしプロジェクトを四谷中学校に紹介したところ、予てからの四谷学という同校独自の授業でぜひ来年度取り組みたいとのことでした。新宿四谷の名物であった内藤とうがらしの復活を目指して、歴史・栽培・料理・アートにと生徒たちが挑戦する予定です。同校は来年度新宿区初の地域協働学校として地域との連携協働を学校運営協議会のもと積極的に推進する計画で、内藤とうがらしの復活を地域の皆さんと共に進めたいとの希望です。第3分科会は学校と地域のパイプ役となつて、内藤とうがらしの花いっぱいプランター追加設置・情報発信など連携協力ができればと考えています。

四谷地区協議会第3分科会リーダー

田中 健士

地域活動トピックス

合い言葉は、“知っている人を増やそう”

— 四谷地区青少年育成委員会 —

育成会あいさつ運動が東京都・心の東京革命より、平成21年10月14日に表彰を受けることができました。ひとえに四谷地区協議会・町会・学校・PTA・地域の皆様方のご協力によるものと受け止め心より御礼申し上げます。



※四谷地区協議会では、あいさつ運動とおし四谷子ども見守り隊活動を展開しています。

沖田総司逝去の地建碑運動について

あさくら ゆう氏(歴史研究家)の活動

沖田総司逝去の地とされる^{※1} 植木屋柴田平五郎宅跡地に「標柱建碑(設置)」を求めて独自に活動し新宿区に陳情書(要望)を提出された^{※2} 歴史研究家 あさくら ゆう氏が活動の理由と経過を説明するため、地区協議会に來会され「(自分が)このような活動を四谷地域でしていることを、ぜひ地域の方に知っていただきたい。」と話されました。

注1：現大京町 28、29 番地周辺

注2：主に幕末史に関する人々の発掘、既存の史実の研究、執筆活動をされている。

四谷ひろば便り

新宿区立四谷第四小学校・幼稚園が、「四谷ひろば」に変わって2年になります！

「地域ひろば」と「東京おもちゃ美術館」「CCAA アートプラザ」の三つが活動しています。ぜひ、遊びに来て下さい。

地域ひろばでは、地域のコミュニティとして、いろいろなことを考え、取組んでいます。地域のボランティアで運営している団体です。皆様のご利用・ご支援をお願いいたします。

■地域ひろばは、

- * 世代を超えた「交流の場」
- * 地域住民による地域貢献活動の場
- * 地域文化の発信拠点

を目指しています。

Yotsuya Public Squar

四谷ひろば運営協議会

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-20

TEL/FAX 03-3358-9140

ホームページ <http://yotsuya-hiroba.jp>

休館日：木曜日 受付：9:00～17:00

シニア健康体操教室

協議会が中心となり地域で推進している、高齢者のための健康体操「シニア健康体操教室」(四谷ひろば会場)では、スポーツ交流委員会の先生と毎週火曜日50名近くの方が体育館ではつらつと体操をされています。しかしながら、必ずしも全員が最初からお元気でいらした訳ではありません。中には病気の後遺症に悩まながら参加されている方もいらっしゃいます。今号ではそのような方の体験談をご紹介します。



健康な汗を流してがんばっています

声

シニア健康体操に参加して

私は若い頃、運動が好きでバレエボール、スキーなど、活発に過ごしていました。

しかし10年前脳梗塞をおこし身体に麻痺が残ってしまつ事態となりました。リハビリを始めたのですが、施設での滞在時間は長いわりには蔓延とした運動の継続でなかなか効果が現れませんでした。

一昨年の10月に四谷特別出張所のボランティアコーナーでたまたま紹介された講座が「シニア健康体操教室」でした。最初は体操がきつく感じて家に帰ると疲れ果ててしまい、「やはり無理かな…」と思いつつ主治医に相談したところ、「辞めては何にもならない。継続してみなさい。」と勧められ、がんばって続けたところだんだん運動機能が向上してきました。毎週一回充実した内容の体操を1時間みっちり運動することでめきめき変化が現れ、驚きました。

また、このような教室を大勢の地域の方がボランティアで運営され、低料金(一回200円)で受講できることに感謝するとともに、地域

にこのような場所(四谷ひろば)ができたことも喜んでいました。自分が入っている所は少々遠いのですが、往復の道のりも運動だと思えば一日も休まずに通っています。

受講をきっかけに四谷ひろば「大人のサロン」の活動や、新宿いきいき体操の講習にも意欲的に参加しています。これからも、体操を続けながら新しいことにチャレンジしたいと思っています。

〈新宿一丁目在住 S・K様〉



四谷地区協議会では地域諸団体と連携して四谷地区健康体操教室実行委員会を立ち上げました。シニア健康体操教室以外にも町会、四谷中学校、花園小学校にご協力いただきながら地域で転ばぬ先のストレッチ体操教室を開催しています。詳しくは裏面事務局にお問い合わせください。

※病中病後の方は受講にあたり主治医とご相談ください。

乳幼児のもしも…を救うために!!

「地域安全・安心」を考えるプロジェクトでは、四谷消防署の指導、協力をいただき「乳幼児のための救命救護講習会」を12月8日(火)に四谷地域センター多目的ホールにて開催しました。

当日、乳幼児の「もしも…」に対応できるAEDの操作、人工呼吸法などを赤ちゃんの等身人形を使い体験しました。受講者は命と向き合うことで真剣に取り組んでいらっしゃいました。

今回参加していただいた「A.Y.さんの声」です。

- Q: 受講されたご感想は?**
A: 貴重な体験ができました。時間がたつと忘れそうなので、復習講座があればよいと思います。次回の開催を期待しています。
- Q: お子様同伴についてはいかがでしたか?**
A: 子どもが小さいので全面保育でなくよかった。子どもはプレイルームと自由に行き来していたが、見守る係の方がいて安心して受講できました。



親子で命と向き合っ

※協議会では今後も救命救護講習会を開催して参ります。尚、復習講座としても受講可能です!

四谷のお宝さがし

～秘話・こぼれ話を御紹介～



【先祖から伝わる歴史的写真】

第2回 四谷お宝さがし発表会 歴史記録賞

三代以上前から四谷にお住まいのY・Tさんが自宅を建替えた際に大量に出てきた古い写真…その数100枚以上。その写真たちの時空を超えた旅のお話です。

Y・Tさんの曾々祖父磯村年氏は陸軍大将乃木希典の参謀であり、5代前の高曾祖父は当時日本領であった釜山で牧場を経営していました。ちなみに元NHKアナウンサー磯村尚徳氏のご親族にあたるということです。昔のことは一族の言伝えとして語り継がれていたようですが、それを裏付ける膨大な写真の束が発見され、家族にとっては先祖を偲ぶ大切な品々と喜ぶ一方で「この写真たちが何かの役にたつのでは…?」と思っていた矢先、四谷お宝さがしの募集チラシが目にとまり、「ここで何か糸口が見つかるのでは…」と、ご応募されました。

こうして写真は釜山から日本そして四谷へ旅し、歴史を語るお宝として、衆目を集めることになったのです。そして、昨年3月に開催されたお宝さがし発表会で、実行委員は鑑定士から「このお宝は然るべきところでの保管を検討すべき」とアドバイスされました。

そこで早速実行委員はY・Tさんを新宿歴史博物館の鈴木靖副館長にご紹介し、相談した結果、鈴木副館長が然るべきところを探してくださることになりました。

しばらくして、行き先は学習院大学東洋文化研究所に決まりました(学習院は乃木希典が第10代院長を務めた学校)。そこに文部科学省オープンリサーチセンター整備事業のプロジェクトとして朝鮮総督府関連資料の調

査を目的とした研究をするセクションが立ち上がっていたのです。李正勲学習院大学東洋文化研究所助教は貴重な資料の寄付を大変喜ばれました。今、写真たちは歴史の証人として研究者に読み解かれています。

又、今回写真と一緒に発見された中に「こころ」を初めとする夏目漱石の本が数冊見つかりました。漱石が四谷の商家に養子に出されたことや「こころ」に乃木希典殉死のくだりが書かれていたりすることなど、多くの接点と偶然の重なりを思う時、目に見えない歴史の糸に操られながら想像の旅を楽しむことができます。

コメント

Y・Tさんにご応募いただいた写真は、「縁」と「記憶」の重要性を再認識させる契機となり、私たちの活動にとってたいへん良い刺激となりました。学術的な研究によって、さらに深い歴史・文化の解明につながっていくことを実行委員一同願っております

四谷お宝さがし実行委員長 豊村 泰彦

※四谷のお宝さがしでは、今後も「お宝の心」を大切にしながら活動を続けて参ります。



漱石文学評論



釜山小学校集合写真

お知らせ 新宿区が利用するドメイン名称が変更になりました

	四谷特別出張所(四谷地区協議会事務局) 電子メールアドレス	新宿区公式ホームページのURL
現行	yotsuya@city.shinjuku.tokyo.jp	www.city.shinjuku.tokyo.jp
変更後	yotsuya@city.shinjuku.lg.jp	www.city.shinjuku.lg.jp

編集・発行 四谷地区協議会
 【事務局】(四谷特別出張所内)
 〒160-8581 新宿区内藤町 87 番地
 電話 3354-6171 FAX.3350-9403
 E-mail : http://www.city.shinjuku.lg.jp

四谷特別出張所に地区協議会 BOX を設置しています。

自治に関する意見・コミュニティ生活の中で感じる事柄、まちづくりに関する提案・疑問、表紙を飾る四谷のワンショット写真、協議会活動に関するご質問・ご意見……など

備え付けの用紙・封筒に必要事項をご記入の上ご投函ください。

～あなたの声が四谷を…～ 変えます!!
 お気軽にお寄せください。

随時募集!!

次号は10月発行予定です。お楽しみに!